

平成28年度

畜産経営における女性の活躍に関する経営主アンケート調査結果

(調査対象：法人経営)

I. はじめに

1. 調査の目的

我が国の畜産において、今後、6次産業化など多様化する畜産経営の担い手として期待される女性の能力をより発揮するためには、環境整備やキャリアアップのための課題と対応方向等を明らかにし、その対応策等を普及していく必要がある。

このことから、畜産経営において、女性が意欲的に働き続けるための課題等を明らかにするために、本アンケート調査を実施した。

2. アンケート調査の概要

1) 調査の対象・経営体数・回収率等

畜産法人経営の経営主586人を対象に実施し、140人から回答を得た。
(回収率23.9%)

2) 調査の方法

道府県畜産協会、全国畜産縦断いきいきネットワーク、全国肉牛事業協同組合の協力の下、調査票送付方式により実施した。

3) 調査時期

平成28年12月～平成29年3月

4) 調査項目

(1) 経営主の属性等

- ①経営主の性別、年齢、経営所在地、経営種別、法人設立年、経営の意思決定に係る検討の場について
- ②経営主の就農の輕易
- ③経営主の畜産に関する技術の習得方法
- ④法人化のメリット

(2) 経営に関することについて

- ①経営部門
- ②年平均飼養頭羽数
- ③役員数・従業員数等
- ④従業員の最終学歴
- ⑤畜産生産部門以外の取組内容
- ⑥法人の資本金

- ⑦平成27年度の売上高
 - ⑧雇用に関する諸規定の整備状況
 - ⑨経営内の業務分担、労働時間、勤務年数等
 - ⑩畜舎付属施設
 - ⑪施設間の距離・移動時間
- (3) 畜産に携わる女性についての経営主の考え
- ①当該経営内で働く女性の就農前の職業
 - ②当該経営内で働く女性の知識や技術の習得方法
 - ③当該経営内における畜産に関連する有資格者の人数
 - ④当該経営内において女性が担当することは困難な業務内容
 - ⑤当該経営において女性に期待するもの（優れていると感じていること）
 - ⑥女性のネットワーク活動への参加や経営以外の活動に対する考え
 - ⑦当該経営内で女性に業務を割り振る際の考え方
 - ⑧休日や休憩時間を確保するために当該経営に取り入れていること
 - ⑨女性との情報共有
 - ⑩当該経営内で女性に対して取り組んでいること
 - ⑪女性のアイデアや、提案を取り入れた結果、経営状況や家畜の生育状況に良い効果が出た代表的なもの
 - ⑫畜産現場で働く女性が、畜産以外で働く女性と比べて苦勞していると感じること
 - ⑬当該経営内で女性が働くために改善すべきだと感じていること
 - ⑭アンケート記入者の立場、性別

3. 調査結果の分析

1) アンケートの集計

アンケート調査結果個票をもとに全体集計、並びに経営者年齢階層別、畜種別、地域別等の組み替え集計を行った。

なお、記述式自由回答欄に寄せられた回答は、回答項目別にグループニングし、全体集計、組み替え集計に組み入れた。

2) アンケートの分析

全体集計及び組み替え集計の結果を分析し、

- ①法人経営の属性と雇用規定等の整備状況
- ②畜産女性の知識・技術習得等の特徴
- ③女性に期待する事項
- ④女性のアイデア等を取り入れたことによる経営効果等を取りまとめた。

Ⅱ. 分析・取りまとめの視点

法人畜産経営における女性の活躍に関する経営主アンケート結果の分析を取りまとめるにあたっては、全体集計並びに組み替え集計を行い、その結果を表やグラフの形式で整理した。

1. 集計・分析区分

- ①全体集計
- ②経営者年齢階層別集計
- ③地域別集計
- ④畜種別集計、等

2. 取りまとめの内容

法人経営における女性の活動実態とその特徴

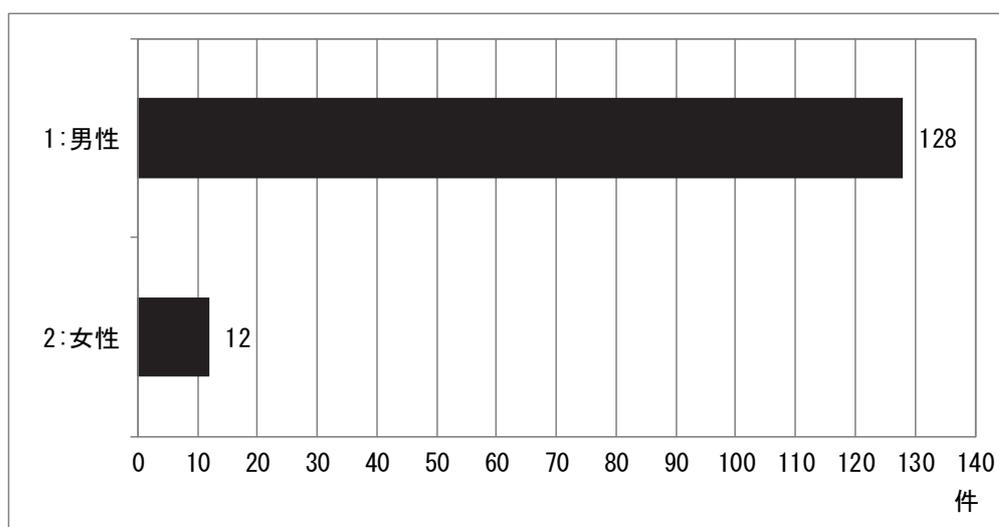
- ①従業者の就労状況
- ②雇用に関する規定の整備状況
- ③畜産に従事する女性への経営主の意識
- ④女性に期待する事項
- ⑤女性のアイデア等を取り入れたことによる経営効果
- ⑥女性が苦勞している主な事項

Ⅲ. 調査結果

1. 経営主の属性（回答を寄せた経営主総数は140件）

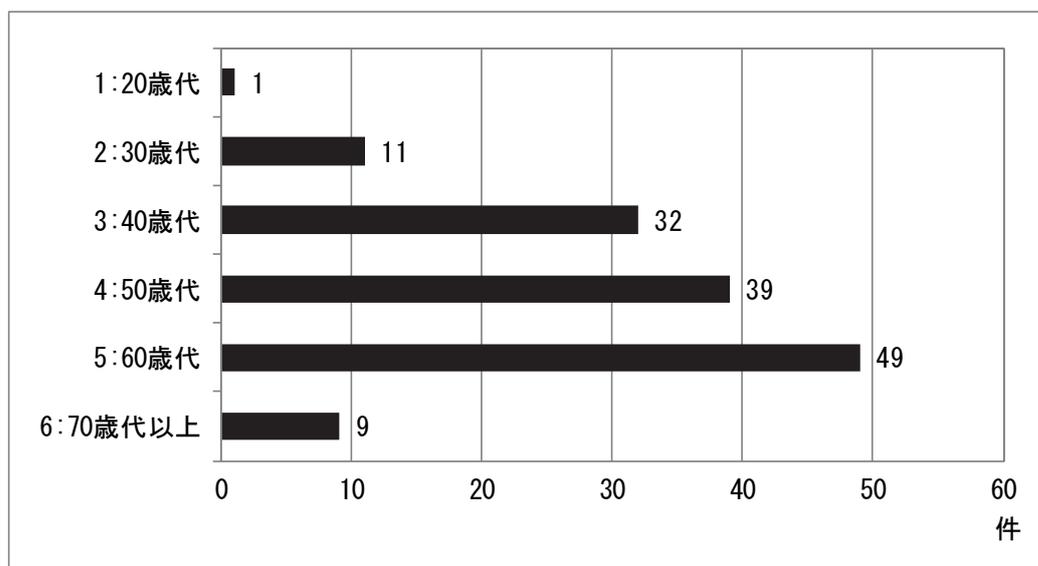
①性別

「男性」が128件（91.4%）、「女性」が12件（8.6%）。



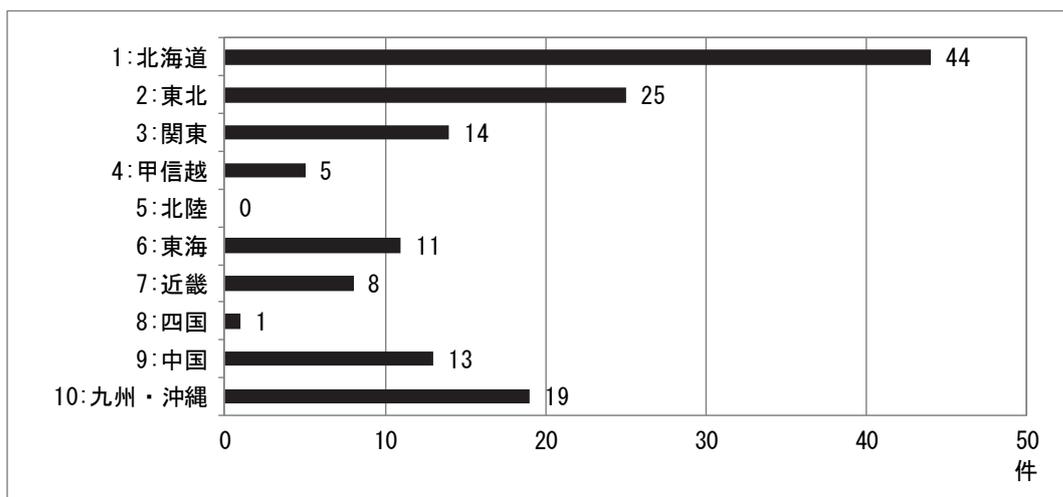
②年齢層

「60歳台」が最多の49件（35.0%）、次いで「50歳台」の39件（27.9%）、
「40歳台」の32件（22.9%）、「30歳台」が11件（7.9%）。「60歳台」と「50歳台」で全体の60%強を占めている。



③所在地

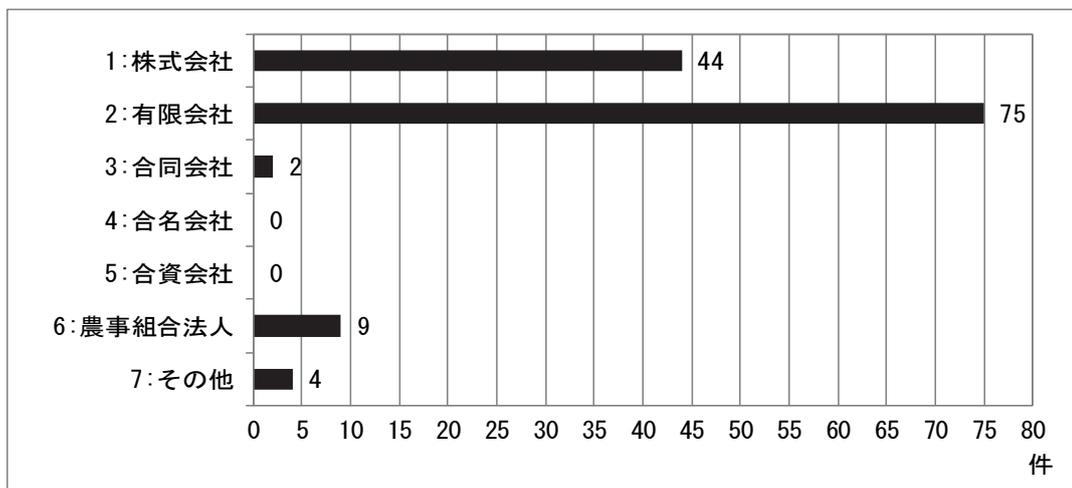
「北海道」が最多の44件（31.4%）、次いで「東北」の25件（17.9%）、「九州・沖縄」の19件（13.6%）、「関東」の14件（10.0%）、「中国」の13件（9.3%）、
「東海」の11件（7.9%）といった地域の回答数が多い。



④経営種別（回答件数134件）

「有限会社」形態が75件（56.0%）と過半を占め、次いで「株式会社」が

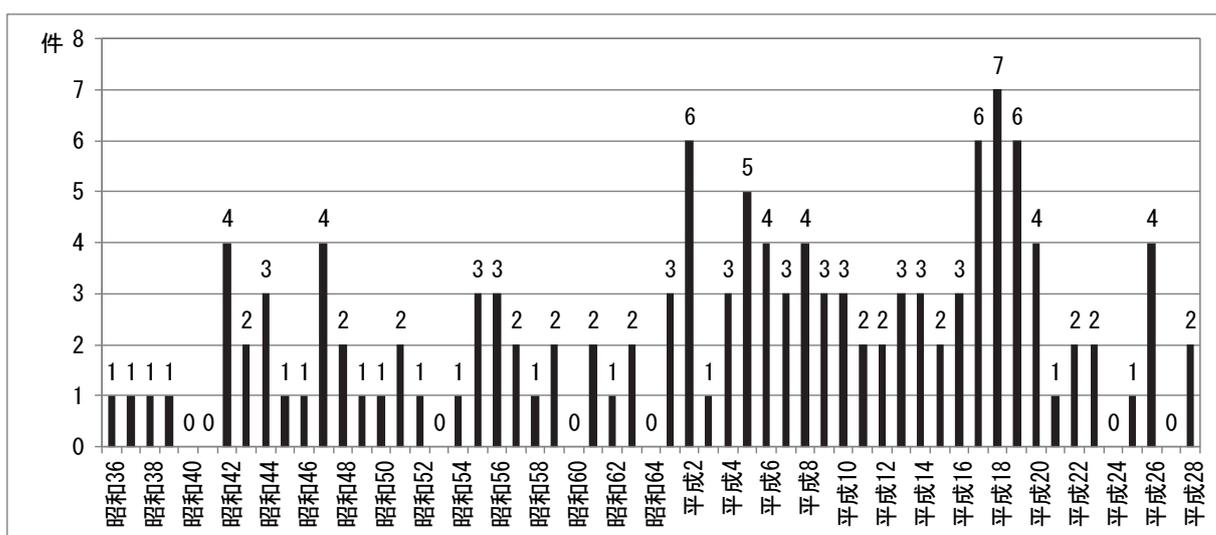
44 件 (32.8%) であり、この2つの経営形態に概ね集約される。「農事組合法人」が9件 (6.7%) を数える。



⑤法人設立年

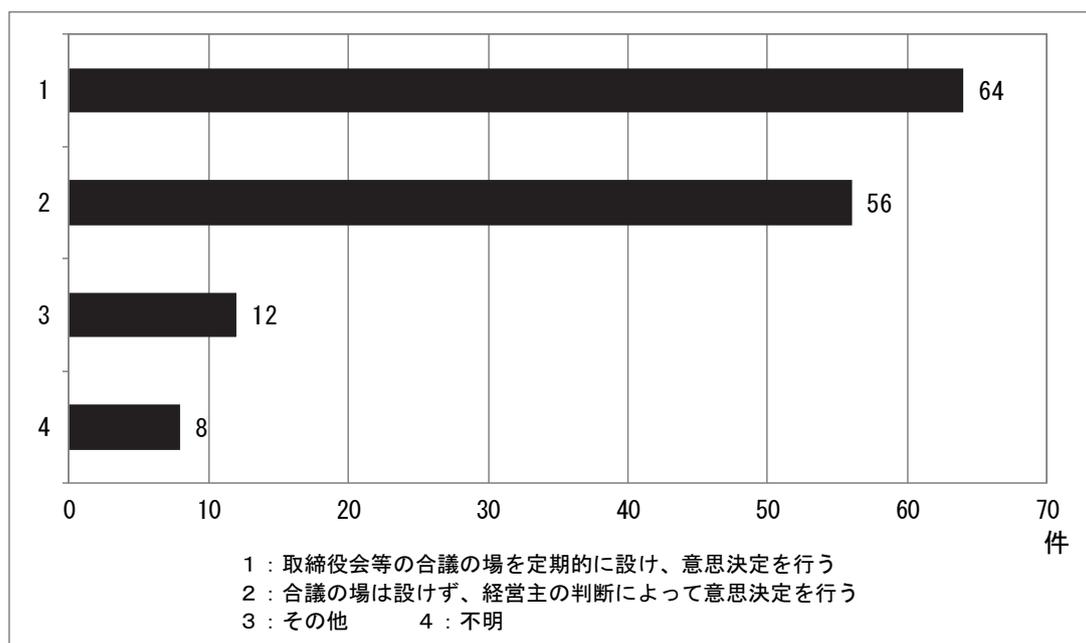
法人設立年はそれぞれの経営の歴史を示すものであり、アンケートを寄せた経営の中でも早くから法人化に取り組んだ経営は昭和30年代後半に設立している。昭和40年代に法人化した経営が比較的多くみられ、その当時の経営者から世代交代した第2世代が現在の経営の舵取りを担っていると推測される。

平成年代に入ると法人化数が増加し、平成一ケタ年代、平成10年代の半ばまでのおよそ15年間はコンスタントな設立数を数える。なお、今回の傾向としては平成15年から20年の間に設立された経営が多いことが特徴的である。



⑥経営の意思決定に係る検討の場の設定

経営の意思決定の場としては2つに大別される。1つめのタイプは「取締役会等の合議の場を定期的に設け、意思決定を行う」が64件（45.7%）。2つめのタイプは「合議の場は設けず、経営主の判断によって意思決定を行う」が56件（40.0%）。両タイプがかなり拮抗した結果を示している。なお、「その他」と「不明」の両者が20件（14.3%）を数える。



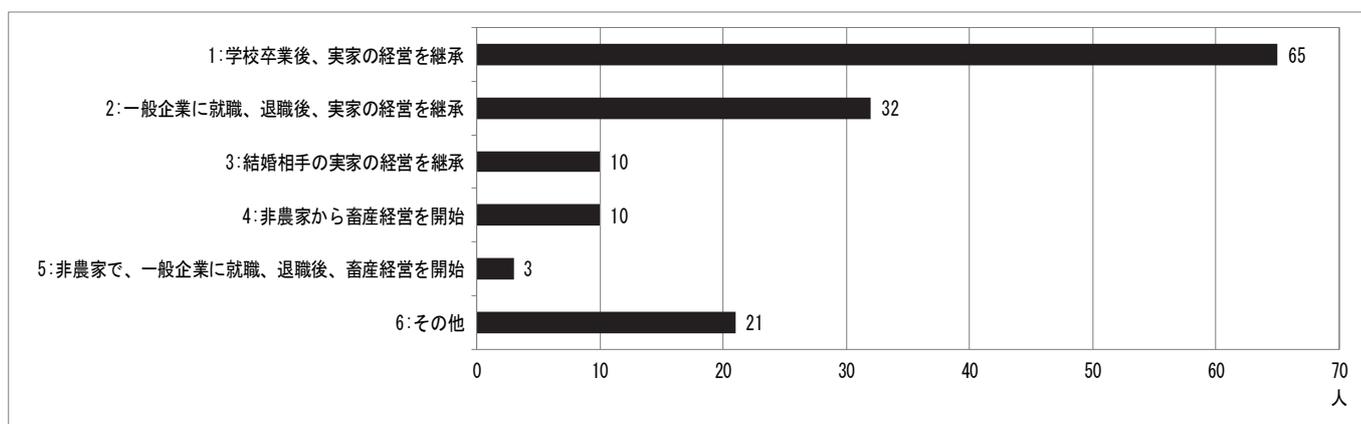
2. 経営主の就農の経緯

「学校卒業後、実家の経営を継承」が最多の65件（46.1%）と他の項目の2倍以上になっている。次いで「一般企業に就職、退職後、実家の経営を継承」が32件（22.7%）となっている。上位2項目の回答は、学校卒業後直ちに経営に参画するか、一度他産業の仕事を経験するかの違いはあるが、「実家の経営を継承」というくくりが97件（68.8%）となり、全体の2/3以上を占めている。

そのほかの回答としては「結婚相手の実家の経営を継承」と「非農家から畜産経営を開始」がそれぞれ10件（各7.1%）ずつを数える。

先の「非農家から畜産経営を開始」10件（7.1%）と「非農家で、一般企業に就職、退職後、畜産経営を開始」が3件（2.1%）ある。このように、まったく経営継承基盤をもたない純粋な「新規参入者」が13件（9.2%）を数えている。数は少ないものの、畜産経営への新規参入が持続的になされ、それらが

会社組織としての形態を整える形で成長してきたことを示唆している。



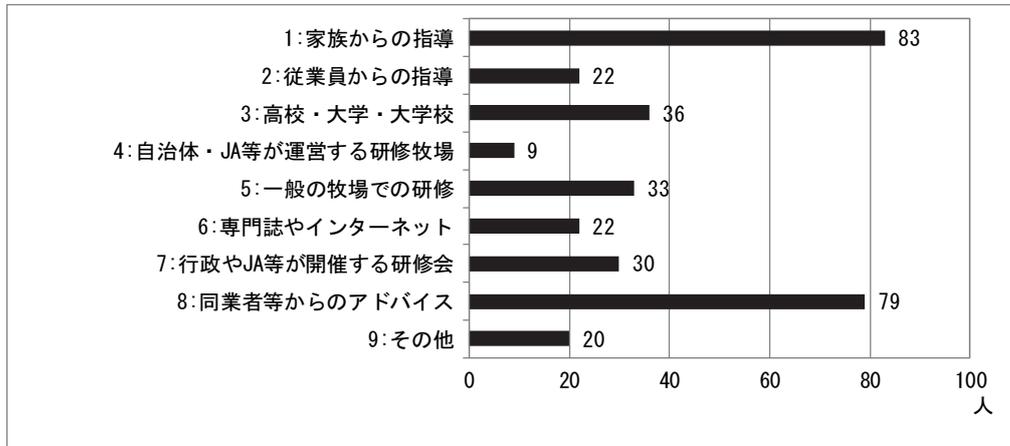
3. 経営主の畜産技術の習得手段について（複数回答、（ ）内の回答率は140件を母数として算出）

「家族からの指導」が最多の83件（59.3%）、次いで「同業者からのアドバイス」が79件（56.4%）、「高校・大学・大学校での学習」が36件（25.7%）、「一般の牧場での研修」が33件（23.6%）、「行政やJA等が開催する研修会」が30件（21.4%）と高い。このほかには「従業員からの指導」と「専門誌やインターネット」がそれぞれ22件（各15.7%）となっている。

機能別にみると「家族からの指導」と「従業員からの指導」は「職場内の教育訓練」（OJT：On the Job Training）としてまとめることができ、回答総数は105件を数え（75.0%）、全体の3/4の経営者が日常的な技術習得の機会を職場内で得ていることになる。またそうした日常的・継続的な技術習得の必要性を象徴するものといえる。

「同業者からのアドバイス」と「行政やJA等が開催する研修会」は、「職場外の集合研修」（Off-JT：Off the Job training）としてまとめることができよう。

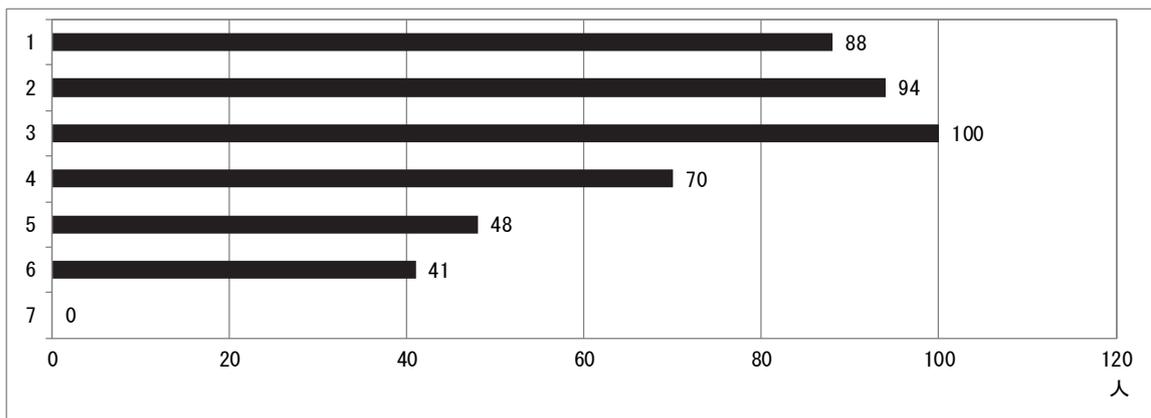
以上の項目や「専門誌やインターネット」等は、概ね「畜産に参画してからの技術習得」という属性をもっている。これに対して、第3番目の項目としての「高校・大学・大学校」と、4番目の「一般の牧場での研修」は経営主が畜産経営への参画に際しての「事前学習・予備学習」としての性格が強いといえよう。



4. 法人化によるメリットについての経営主の考え（複数回答、()内の回答率は140件を母数として算出）

「従業員の社会保険、年金制度など従業員の社会保障を充実させることができる」が最多の100件（71.4%）、次いで「金融機関からの信用力や制度資金の融資枠の拡大により資金調達がしやすくなる」94件（67.1%）、「家計と経営が分離し、明確に経理・経営内容を把握できる」が88件（62.9%）であり、この3項目への回答率の高さが際立っている。

第4位は「社会的信用力が増す」が70件（50.0%）、第5位が「税制上の優遇が受けられる」48件（34.3%）、そして第6位が「個人経営に比べて、役員交代に伴う相続や事業継承がしやすい」41件（29.3%）となっている。



- 1: 家計と経営が分離し、明確に経理・経営内容を把握できる。
- 2: 金融機関からの信用力や制度資金の融資枠の拡大により、資金調達がしやすくなる
- 3: 従業員の社会保険、年金制度など従業員の社会保障を充実させることができる
- 4: 社会的信用力が増す
- 5: 税制上の優遇が受けられる
- 6: 個人経営に比べて、役員交代に伴う相続や事業継承がしやすい
- 7: その他

5. 該当する経営部門について（一部重複回答あり、（ ）内の回答率は回答数156件を母数として算出）

「肉用牛経営」が84件（53.8%）と全体の過半を占める。中でも特に「肉用牛肥育」が46件と（29.5%）が中核をなしている。次いで「養豚経営」が31件（19.9%）であり、その大半が「養豚一貫経営」である。「酪農経営」は「酪農専業」が主体であり、「乳肉複合」と合わせて27件（17.3%）を数える。「採卵鶏経営」は14件（9.0%）となっている。

以上のように「肉用牛経営」を中心に、経営規模の拡大とそれに伴う法人化を図りやすい多様な畜種が対象となっている。

	戸数
酪農専業	20
乳肉複合	7
肉用牛繁殖	18
肉用牛肥育	46
肉用牛繁殖肥育一貫	19
肉用牛その他	1
養豚一貫	27
養豚子取り	1
養豚肥育	3
採卵鶏	14
肉用鶏	0
計	156

6. 役員・従業員の状況

①役員数・従業員数の規模別区分

役員・従業員の合計人数を5人刻みで区分した傾向を見ると、「6～10人」の階層から「31～35人」までの6つの階層が概ね200人以上を数えており、規模別区分の主要階層といえる。その後「36～40人」階層から「45～50人」までの3つの階層はウエイトが小さい。しかし「51人以上」の階層になると人数が急拡大している。数は少ないものの一部の大規模経営における雇用者数の多さを物語っている。

以上のことを10人毎の階層区分に再編成してみると、「10人以下」の階層が404人（全体の15.5%）、「11～20人」の階層が492人（18.9%）、「21～30人」の階層が485人（18.6%）、

「31～40人」の階層が276人（10.6%）、「41～50人」の階層が85人（3.3%）、「51人以上」の階層が863人（33.1%）となっている。

雇用者に占める女性比率が比較的高いのが、「5人以下」層から「26～30人」までの各階層であり、概ね30%以上と高い数値を示している。その上の階層規

模である「31～35人」から「45～50人」までの4つの階層では女性比率が低下している。そして「51人以上」の階層で再び女性割合が急速に高まっている。

「パート人数」や「外国人研修生数」が多いのは、規模の大きな「51人以上」の階層であり、大規模経営を支える人材として「パート」「外国人研修生」の果たす役割が大きいことを物語っている。この階層では「パート」「外国人研修生」の両項目とも女性比率が高いことから、女性従業員が十分に適応できる業務内容や作業体系作りを念頭に置いた仕組みに取り組んでいるものと推測される。

(単位：人)

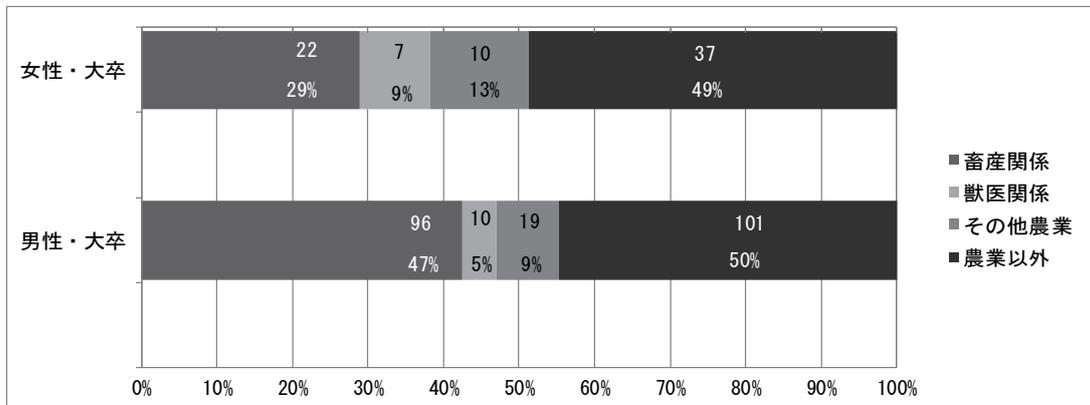
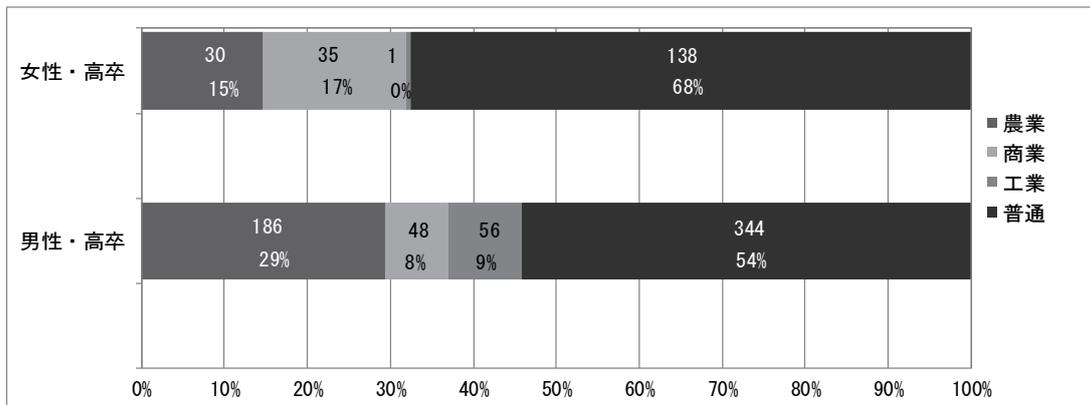
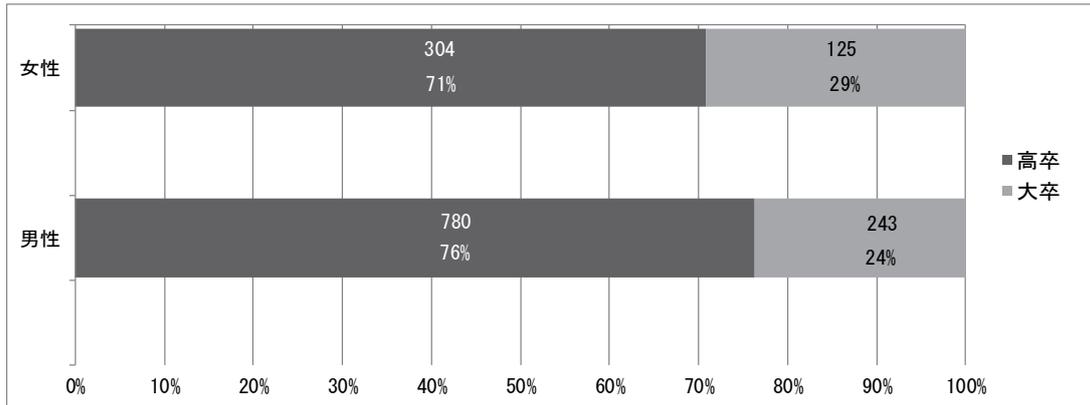
役員・従業員数 区分	総数	役員			雇用人数									外国人研修生		
		総数	うち女性	女性割合	総数	うち女性	女性割合	うちパート			総数	うち女性	女性割合			
								人数	うち女性	女性割合						
～5人以下	82	2.1	1.3	63%	2.1	1.0	47%	1.5	1.7	111%	1.3	0.0	0%			
6～10人	322	2.8	1.3	46%	4.4	1.7	39%	1.9	1.7	89%	1.7	1.4	86%			
11～15人	227	3.2	1.2	37%	9.4	2.5	26%	2.4	2.5	103%	0.0	0.0	0%			
16～20人	265	3.1	1.2	40%	13.1	4.4	33%	3.3	3.1	96%	3.1	2.5	80%			
21～25人	233	3.5	1.6	44%	18.6	5.6	30%	4.8	3.1	65%	6.0	0.0	0%			
26～30人	252	4.4	1.7	39%	21.7	7.4	34%	4.8	3.3	69%	5.7	4.5	79%			
31～35人	198	4.5	1.7	37%	26.7	3.3	13%	3.3	2.3	70%	5.5	2.0	36%			
36～40人	78	3.0	1.0	33%	36.0	7.5	21%	6.0	4.0	67%	0.0	0.0	0%			
41～45人	85	3.5	1.0	29%	39.0	7.0	18%	7.5	5.0	67%	0.0	0.0	0%			
45～50人	0	0.0	0.0	0%	0.0	0.0	0%	0.0	0.0	0%	0.0	0.0	0%			
51人以上	863	4.5	1.6	35%	77.1	29.8	39%	29.2	18.3	63%	11.8	6.5	55%			
全体	2605	3.2	1.3	43%	15.7	5.4	35%	6.2	4.8	77%	3.9	2.5	64%			

②従業員の最終学歴

従業員の最終学歴は、男性の場合(回答者数 1,023人)「高校卒業」が76%、「大学卒業」が24%である。女性(回答者数 429人)も同様の傾向を示し「高校卒業」が71%、「大学卒業」が29%となっている。

「高校卒業」者の男女別傾向を見ると、男性(780人)は「普通高校」が54%、次いで「農業高校」が29%となっている。それに対して女性(304人)は「普通高校」が68%と男子よりも高く、「農業高校」は15%と男子の1/2の割合に留まっている。

「大学卒業」者の男女別傾向を見ると、男性(243人)は「農業以外」を専攻した学生が50%、次いで「畜産関係」専攻が47%であり、この両者がほぼ拮抗している。女性(125人)の場合は、「農業以外」の専攻者が49%と男性と同様の約半数を占めていることは共通している。しかし第2位の「畜産関係」専攻が29%、さらに「その他農業」が13%、「獣医関係」が9%を示しており、男性よりも多彩な形で農業関連分野の出身者が携わっているといえよう。



7. 畜産部門以外の取り組み状況（複数回答）

畜産以外の取り組み状況としては、生産物の「販売」事業への取り組みが51件と最多であり、次いで生産物の「加工」事業が35件となっている。第3位は「水稲・畑作」といった他の複合農業部門である。「体験学習」も14件を数える。

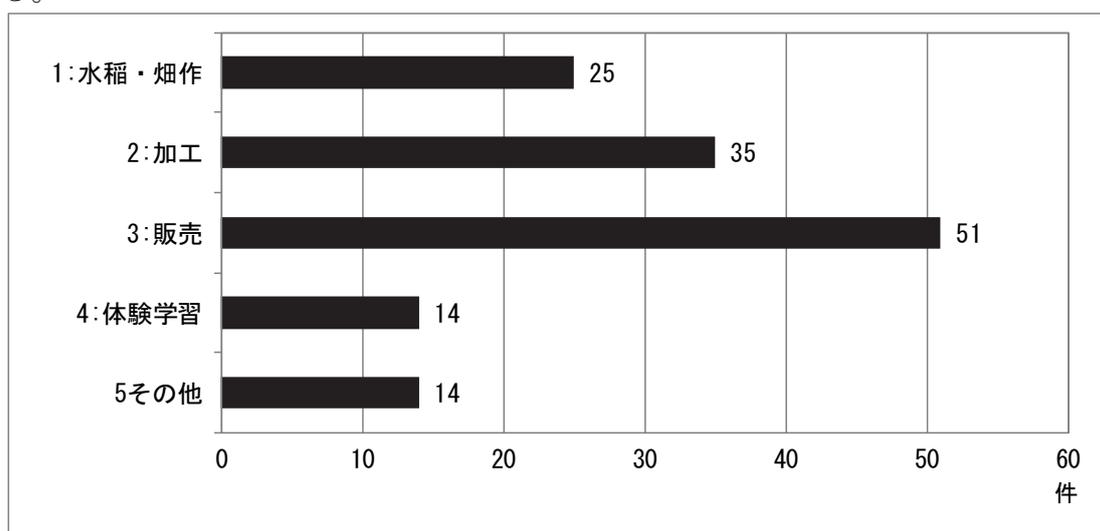
第3位の「水稲・畑作」部門への取り組みは、畜産経営としての法人化への業態集中化の中で、これまで所有している農地の有効利用等の観点、並びに経営内での複合化部門・補完部門としての位置づけが反映したものと考えられる。

一方、「加工」「販売」の両事業は、いわゆる6次化産業としての経営発展の

傾向を如実に反映したものであろう。「加工」よりも「販売」に取り組む件数が5割近く上回っているのは、畜産生産物の特性を反映させたものといえる。採卵養鶏のように、「卵の直売所」という形で「販売」に結びつけることは比較的容易である。しかし、卵焼きやプリンなどの卵加工品による「加工」事業となると、そこに加工技術者や加工に関わる各種施設・機械等が必要になるため、その比率が低下するものとみられる。

「加工」「販売」事業は、生産物自体の経営内への付加価値取り込み戦略であり、そうしたことに取り組むことが可能な経営体の積極的な経営活動を示しているといえよう。畜産物生産は従来、製品加工、販売チャネル等の制約条件のもと、プロダクトアウト的要素が強かったが、業態拡大が可能な法人経営を中心にマーケットインの視点を意識した経営が多くみられるようになったことを物語っている。その意味からも、自分たちの経営の存立している地域を強く意識することになったといえよう。地域の生活者・住民の人たちを、同じ地域で畜産事業を展開する経営体から見たときに、「良き理解者」としてみてもらうことの必要性、そして、「地域の消費者」でもあることを強く認識したことであろう。

なお、「体験学習」も地域との絆を強く意識したものである。「体験学習」は児童・生徒等への生活体験等の教育活動として農業全般で実施されているが、畜産場合、「動物とのふれあい」などによる、生き物を通じた「命の大切さ」や「癒やし」などの要素が加味され、学校などからの要望も高いものと思われる。



8. 従業員の雇用に関する諸規定の整備状況

①就業条件等に関する取り決め

就業規則として「就業時間、休暇」についての取り決めは「ある」が121件

(89.6%)、「ない」が14件(10.4%)である。「育児休業、介護休業」は「ある」が56件(43.4%)、「ない」が73件(56.6%)である。「就業時間、休暇」の取り決め率に対して「育児休業、介護休業」の取り決め率は半数以下に減少している。

就業規則は、雇用者による経営を行うための基本をなすものであり、従業員10人以上の事業所では作成が義務づけられている。従業員規模との関連は明らかではないが、少なくとも雇用型経営を指向した段階から意識すべき事項であり、その運用がきちんとなされていることが重要である。

賃金規則として「本俸」の取り決めは「ある」が108件(82.4%)、「ない」が23件(17.6%)である。「超過勤務」は「ある」が96件(74.4%)、「ない」が33件(25.6%)。「退職金」の規定は「ある」が75件(58.1%)、「ない」が54件(41.9%)であり、上記の「本俸」と「超過勤務」の2項目に対して大幅に減少している。

賃金規則等も多くの経営体で設けているが、その規定がきちんと運用されているかどうかはやはり問われる。合理的な賃金体系として従業員が認識し、そして従業員の間での公平感や納得性が問われる項目である。経営者として労務・人材管理上の重要なポイントであろう。

(単位：件)

		有る	無い
就業規則	就業時間、休暇	121	14
	育児休業、介護休業	56	73
賃金規則	本俸	108	23
	超過勤務	96	33
	退職金	75	54

②社会保険等の加入状況

「労災保険」へ「加入している」が125件(94.7%)、「加入していない」が7件(5.3%)。「雇用保険」へ「加入している」が118件(92.2%)、「加入していない」が10件(7.8%)。「社会保険」へ「加入している」が121件(93.8%)、「加入していない」が8件(6.2%)となっている。

(単位：戸)

		加入している	加入していない
労災保険		125	7
雇用保険		118	10
社会保険	健康保険	121	8
	厚生年金保険	120	8

9. 経営内の業務分担

①経営主家族

経営主家族で仕事に従事する全体人数は205人であり、内訳は女性が63人

(30.7%)、男性が142人(69.3%)である。この女性従事比率30.7%を基準にして、女性の従事割合が高い業務内容は以下の通りである。

家畜飼養の現場作業としてみると、「搾乳関係」業務としての「器具準備」(36.4%)、「搾乳」(33.3%)、「洗浄」(50.0%)といった一連の業務のウエイトが高い。このほかには「哺育・育成・育すう」のウエイトがやや高く30.9%となっている。

一方、「飼料給与」に関わる業務は「給与」(22.9%)、「残飼処理」(20.0%)、「製造・調整」(5.9%)のように全般的にウエイトが低い。

生産物の加工・販売等に関わる業務内容への従事比率は比較的高くなっている。「加工」(39.1%)、「販売」(30.6%)、「体験学習」(34.6%)であり、畜産生産物の付加価値作りに関わる要素が大きいといえる。

また、「経理」(43.3%)、「総務(人事)管理」(34.7%)などの間接部門・管理部門への従事比率も高く、経営活動の基礎的事項を広くサポートしているとみられる。

区分	男女比(%)		人数(人)			
	女性	男性	女性	男性	計	
性別	30.7	69.3	63	142	205	
平均労働時間(1日当たり)			6.6時間	5.6時間	6.1時間	
①飼料給与	製造・調整	5.9	94.1	2	32	34
	給与	22.9	77.1	16	54	70
	残飼処理	20.0	80.0	8	32	40
②繁殖	種付	3.0	97.0	1	32	33
	分娩	18.8	81.3	9	39	48
③ほ育・育成・育すう	30.9	69.1	17	38	55	
④家畜移動	14.5	85.5	11	65	76	
⑤搾乳	器具準備	36.4	63.6	4	7	11
	搾乳	33.3	66.7	4	8	12
	洗浄	50.0	50.0	4	4	8
⑥出荷・集卵	11.5	88.5	7	54	61	
⑦糞尿処理	畜舎清掃	21.9	78.1	14	50	64
	堆肥処理・生産	3.1	96.9	2	63	65
	経営外搬出	0.0	100.0	0	37	37
⑧飼料生産	圃場調整	0.0	100.0	0	29	29
	播種	0.0	100.0	0	27	27
	収穫	8.8	91.2	3	31	34
	収納	5.7	94.3	2	33	35
⑨施設・機械の整備等	3.3	96.7	2	58	60	
⑩加工	39.1	60.9	9	14	23	
⑪販売	30.6	69.4	19	43	62	
⑫体験学習	34.6	65.4	9	17	26	
⑬広報	17.6	82.4	12	56	68	
⑭経理	43.3	56.7	45	59	104	
⑮総務(人事)管理	34.7	65.3	41	77	118	

②雇用者全体

本アンケートでは雇用者(パートを除く)の男女比は、女性が46.1%、男性が53.9%となっている。この比率をもとに、女性の従事割合が高い業務内容は

以下の通りである。

家畜飼養の現場作業としてみると、「家畜移動」(54.2%)、「搾乳」関連の「機器準備」と「搾乳」がそれぞれ(52.2%)と高い(但し、「洗浄」は32.0%と低い)。

「繁殖」関係の「種付」(45.5%)と「分娩」(44.6%)は女性の従事割合の平均的傾向と近似しているが、そのほかの飼養管理業務は軒並み従事割合が低いという傾向がある。

一方、生産物の加工・販売等に関わる業務への従事割合は、全般的に高い傾向を示している。「加工」(46.9%)、「販売」(54.5%)、「体験学習」(52.9%)となっている。また、「施設・機械の整備等」(56.5%)も高くなっている。

管理・間接部門の業務としての「広報」(76.5%)や「経理」(68.0%)は非常に高い従事割合を示しており、女性の持つきめの細かさや、消費者としての女性目線を活かした対外活動、経営管理への関わりの傾向を示すものといえよう。

雇用者の業務内容であるので、当然と言えば当然の内容であるが、「総務(人事)管理」は0%となっている。

(単位:%)

区分		雇用(パート除く)		パート		外国人研修生		雇用(パート除く)		パート		外国人研修生	
		女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
性別		46.1	53.9	53.3	46.7	57.6	42.4	82.0	96.0	49.0	43.0	19.0	14.0
平均労働時間 (1日あたり)	最短							6.2時間	5.9時間	4.6時間	4.9時間	6.3時間	5.9時間
	最長							8.2時間	8.8時間	7.7時間	8.9時間	8.5時間	8.8時間
①飼料給与	製造・調整	34.9	65.1	42.9	57.1	46.2	53.8	45.0	84.0	15.0	20.0	6.0	7.0
	給与	35.2	64.8	33.3	66.7	53.8	46.2	37.0	68.0	11.0	22.0	7.0	6.0
	残飼処理	31.4	68.6	33.3	66.7	25.0	75.0	16.0	35.0	1.0	2.0	1.0	3.0
②繁殖	種付	45.5	54.5	50.0	50.0	53.3	46.7	35.0	42.0	6.0	6.0	8.0	7.0
	分娩	44.6	55.4	50.0	50.0	66.7	33.3	41.0	51.0	14.0	14.0	6.0	3.0
③ほ育・育成・育すう		33.3	66.7	16.7	83.3	63.6	36.4	39.0	78.0	4.0	20.0	7.0	4.0
④家畜移動		54.2	45.8	44.4	55.6	62.5	37.5	13.0	11.0	4.0	5.0	10.0	6.0
⑤搾乳	器具準備	52.2	47.8	44.4	55.6	62.5	37.5	12.0	11.0	4.0	5.0	10.0	6.0
	搾乳	52.2	47.8	44.4	55.6	62.5	37.5	12.0	11.0	4.0	5.0	10.0	6.0
	洗浄	32.0	68.0	40.0	60.0	57.1	42.9	24.0	51.0	8.0	12.0	4.0	3.0
⑥出荷・集卵		35.4	64.6	28.9	71.1	56.5	43.5	46.0	84.0	13.0	32.0	13.0	10.0
⑦糞尿処理	畜舎清掃	14.6	85.4	19.0	81.0	40.0	60.0	13.0	76.0	4.0	17.0	2.0	3.0
	堆肥処理・生産	13.0	87.0	11.1	88.9	50.0	50.0	7.0	47.0	1.0	8.0	1.0	1.0
	経営外搬出	12.9	87.1	30.0	70.0	0.0	0.0	4.0	27.0	3.0	7.0	0.0	0.0
⑧飼料生産	圃場調整	11.5	88.5	28.6	71.4	0.0	0.0	3.0	23.0	2.0	5.0	0.0	0.0
	播種	15.2	84.8	40.0	60.0	0.0	0.0	5.0	28.0	4.0	6.0	0.0	0.0
	収穫	22.2	77.8	27.3	72.7	100.0	0.0	10.0	35.0	3.0	8.0	1.0	0.0
	収納	18.7	81.3	19.0	81.0	50.0	50.0	14.0	61.0	4.0	17.0	2.0	2.0
⑨施設・機械の整備等		56.5	43.5	92.3	7.7	100.0	0.0	13.0	10.0	12.0	1.0	1.0	0.0
⑩加工		46.9	53.1	87.5	12.5	0.0	0.0	15.0	17.0	14.0	2.0	0.0	0.0
⑪販売		54.5	45.5	80.0	20.0	0.0	0.0	6.0	5.0	4.0	1.0	0.0	0.0
⑫体験学習		52.9	47.1	70.0	30.0	0.0	0.0	9.0	8.0	7.0	3.0	0.0	0.0
⑬広報		76.5	23.5	88.2	11.8	0.0	0.0	26.0	8.0	15.0	2.0	0.0	0.0
⑭経理		68.0	32.0	85.7	14.3	0.0	0.0	17.0	8.0	6.0	1.0	0.0	0.0
⑮総務(人事)管理		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

10. 畜舎付属施設の有無

施設保有率の高いものは「駐車場」97%、「休憩室」93%、「トイレ」90%である。この3施設は、いわば畜産業に従事する際の必須施設ともいえるが、「トイレ」の未設置が10%あるのは気がかりである。早急な対応が必要な事項であろう。

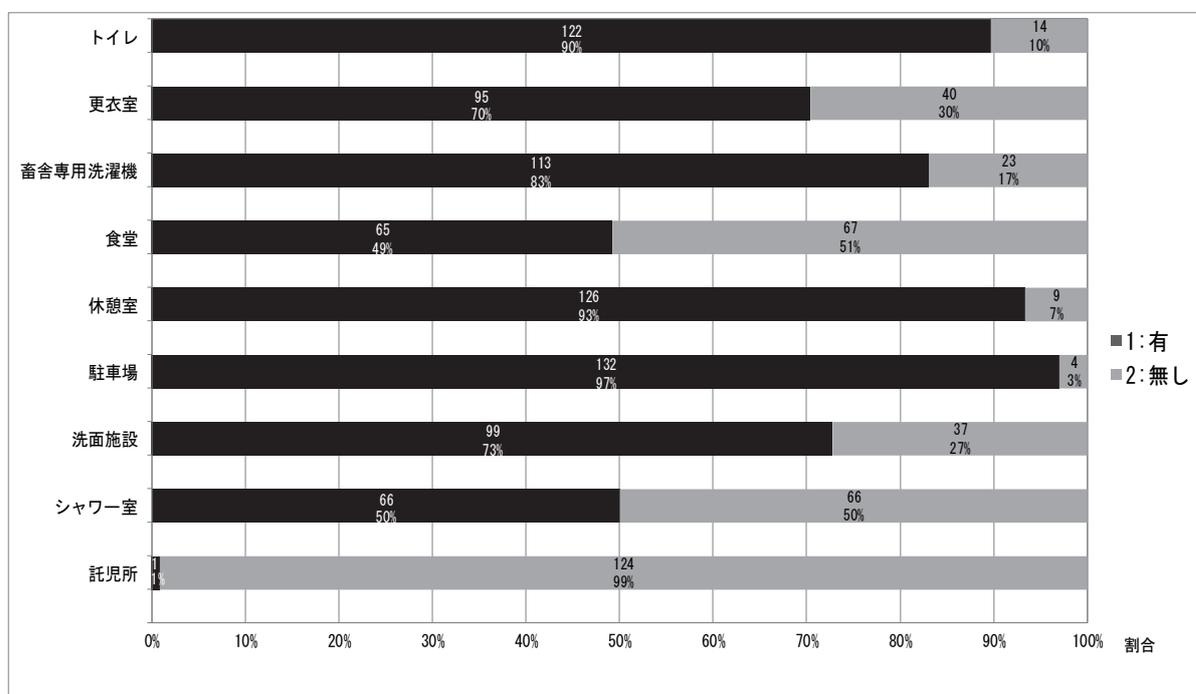
他の施設の設置率は上記の3項目と比べると設置率にかなり開きがみられる。「更衣室」が70%、「畜舎専用洗濯機」が83%、「洗面施設」が73%、「シャワー室」が50%となっている。これらの施設は、仕事終了時の作業着から私服への着替える時の対応を反映したものであるが、設置費や防疫面での要素等を反映

した結果であろう。当然のことながら「畜舎専用洗濯機」のように設置しやすいものの割合が高く出ている。

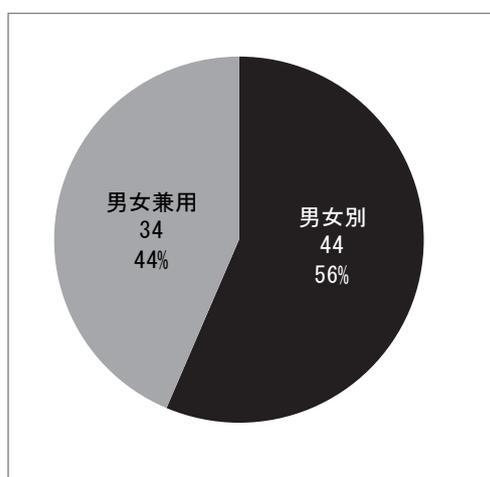
更衣室の男女別割合は、「男女別」が 56%、「男女兼用」が 44%である。トイレの男女別割合は、「男女別」が 24%、「男女兼用」が 76%、トイレの和式・洋式別割合は、「和式」が 41%、「洋式」が 59%となっている。

今後、女性従業員に安心して働ける仕事の間を準備するという観点から見れば、更衣室とトイレの「男女別」は不可欠の要素となろう。

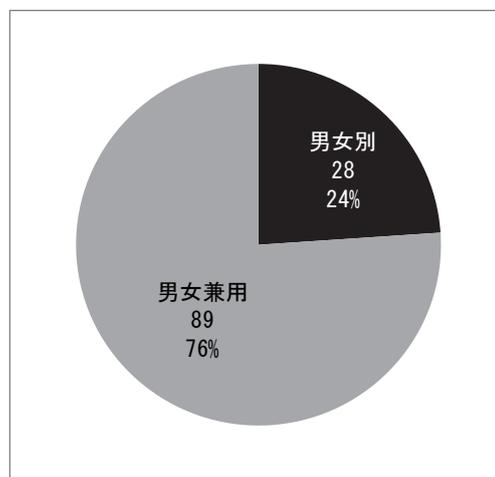
畜舎と各施設間の距離は概ね 50m以内の施設がおよそ 60%程度に上る。それより遠い施設でも概ね 400m以内で全体の 90%以上をカバーしている。



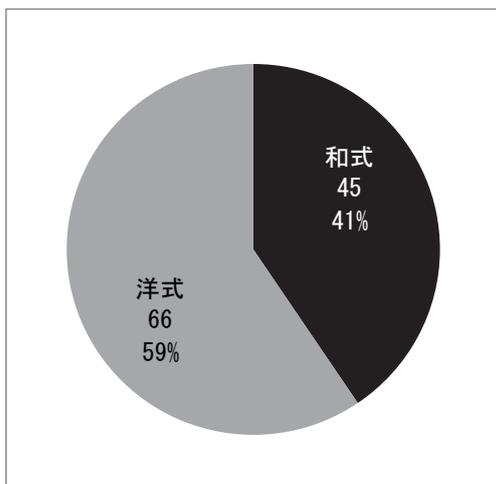
【更衣室の男女別 (割合)】



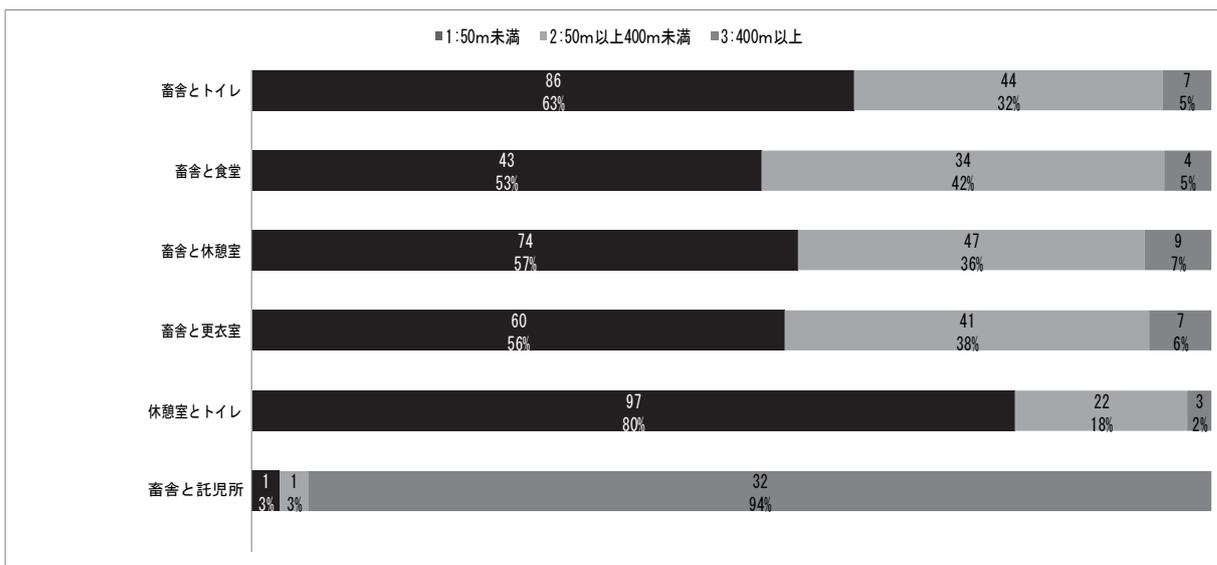
【トイレの男女別 (割合)】



【トイレの和式・洋式別（割合）】



施設間の距離

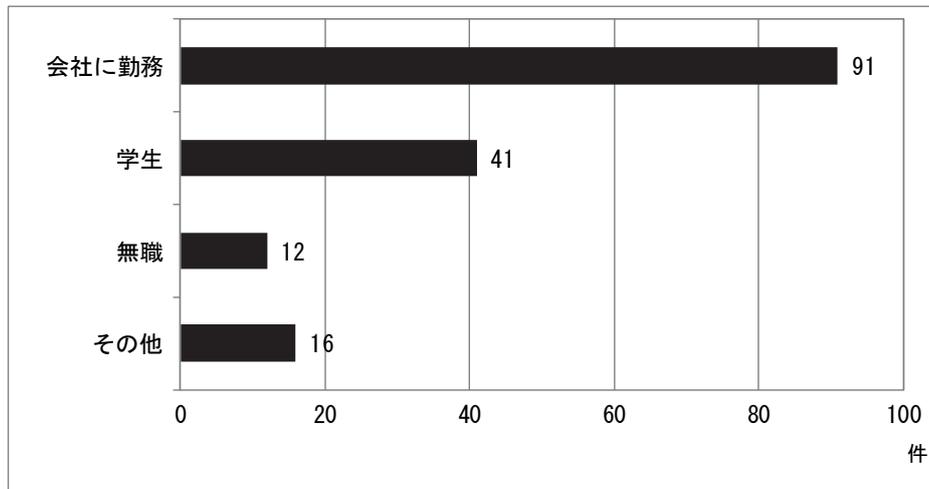


※託児所は「外部の託児所」

11. 畜産に携わる女性に関する経営主の考え

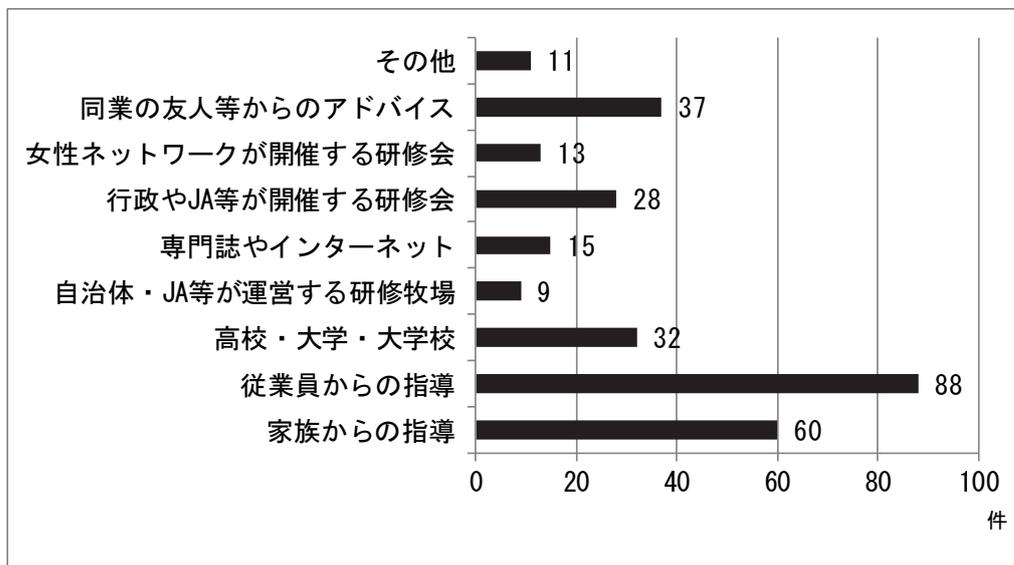
①経営で働く女性の就農前の職業

「会社勤務」が91件と圧倒的に多い。次いで「学生」が41件、「その他」が16件、「無職」が12件である。



②経営で働く女性の知識・技術の習得手段（複数回答）

第1位は「従業員からの指導」が88件、第2位が「家族からの指導」が60件、第3位が「同業の友人等からのアドバイス」が37件、第4位が「高校・大学・大学校」が32件、そして第5位が「行政やJA等が開催する研修会」が28件となっている。



③経営内の有資格者（複数回答）

男性の場合は、第1位が「大型特殊自動車運転免許」が382件、第2位が「家畜人工授精師」が119件、第3位が「その他」93件、第4位が「家畜商」83件となっている。

女性の場合、第1位が「その他」61件、第2位が「大型特殊自動車運転免許」40件、第3位が「家畜人工授精師」の35件となっている。第1位の「その他」

の内容は不明であるが、男性よりもこの項目が上位にある。また、ウエイトはそれほど高くないものの「調理師」が18件と第4位になっている。「加工」あるいは「販売」部門等でそうした資格を活かす道があるものと推測される。

(単位:人、%)

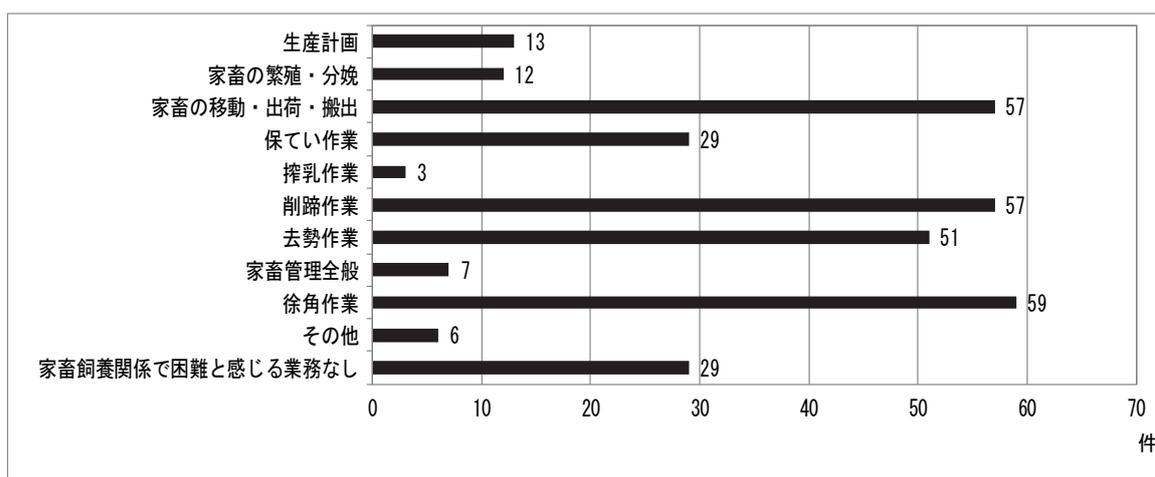
区分	男性		女性	
	人数	合計に占める割合	人数	合計に占める割合
①家畜人工授精師	119	6.1	35	3.0
②家畜人工授精師(受精卵移植)	29	1.5	11	0.9
③獣医師	22	1.1	7	0.6
④家畜商	83	4.2	6	0.5
⑤調理師	25	1.3	18	1.6
⑥大型特殊自動車運転免許	382	19.6	40	3.4
⑦その他	93	4.8	61	5.3
調査対象の男女別人数の合計	1,953		1,161	

④女性が担当するのは困難であると感じている業務 (複数回答)

ア. 家畜飼養関係

第1位が「除角作業」で59件、第2位が「削蹄作業」と「家畜の移動・出荷・搬出」がともに57件、第4位が「去勢作業」が51件となっている。この4項目はいずれも、直接動物自体に働きかけ、触れたり触ったりする仕事であり、動物をコントロールするための体力と集中力を求められる危険を伴う作業である。従ってこれらへの回答率が高いことは十分に理解できる。

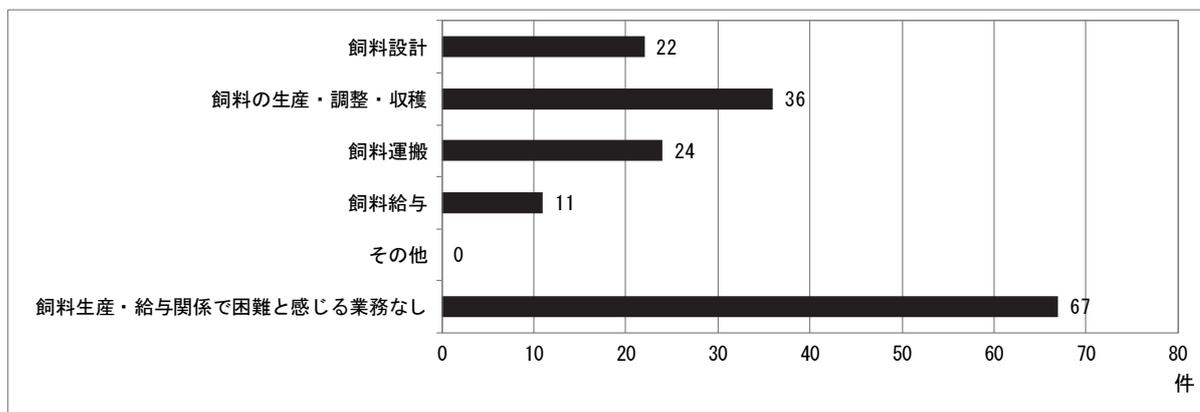
なお、「家畜飼養関係で困難と感じる業務はない」との回答は29件である。



イ. 飼料生産・給与関係

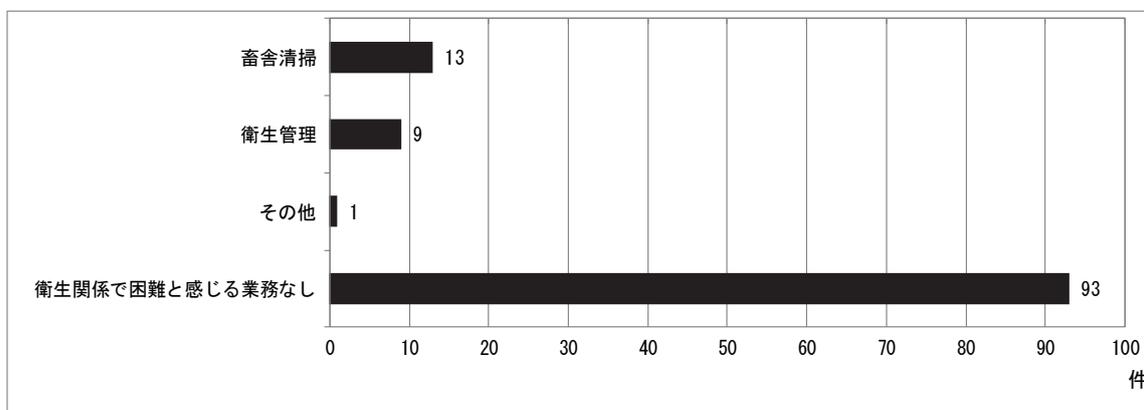
「飼料生産・給与関係で困難と感じる業務はない」とする回答が第1位を占め67件を数える。第2位は「飼料の生産・調整・収穫」が36件、第3位が「飼料運搬」が24件、第4位が「飼料設計」が22件となっている。

先の「家畜飼養」が危険な業務を伴うことから「困難と感じる」具体的回答が多かったのに対して、「飼料生産・給与」関係の業務は動物の体に直接働きかける要素は少ないため、相対的に「困難と感じる業務」が低くなると思われる。



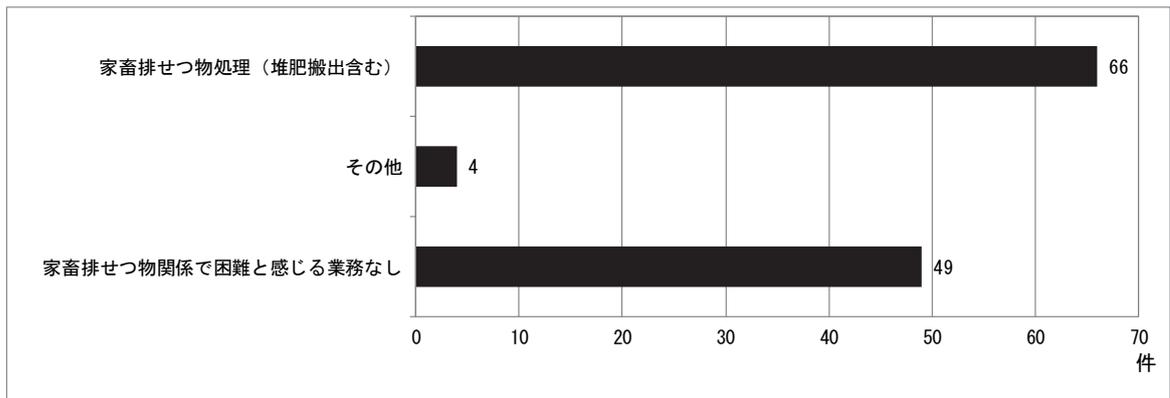
ウ. 衛生関係

この回答は先の「飼料生産・給与」の回答以上に「衛生関係で困難と感じる業務はない」との回答数が 93 件と圧倒的に高い数字を示している。概ね「衛生関係」の業務には男女差は生じないものとみられる。



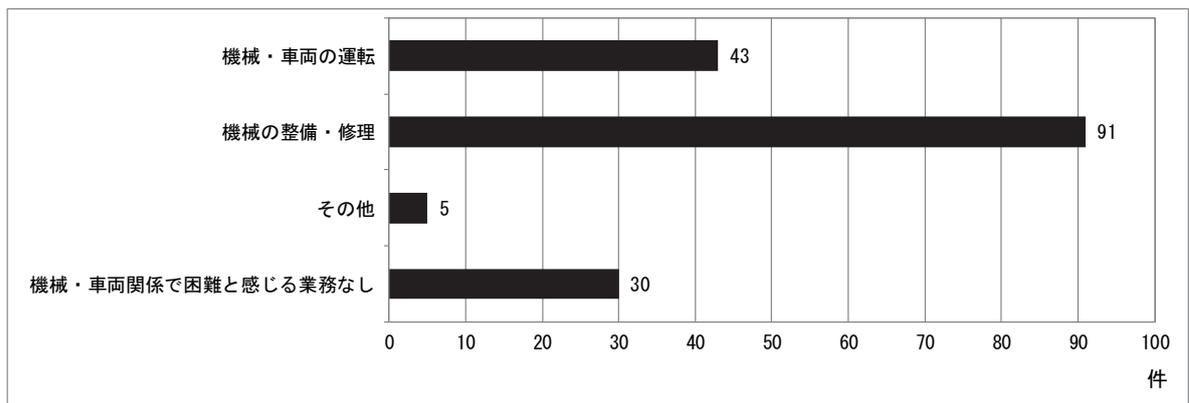
エ. 家畜排せつ物関係

この回答も比較的「困難と感じる業務ではない」との見方をする回答が 49 件と比較的高い。しかし、「家畜排せつ物処理（堆肥搬出含む）」が困難とする回答がそれを上回り 66 件の回答数を数える。力仕事を必要とする部分や重機などの機械オペレーター作業があることを反映した結果と思われる。



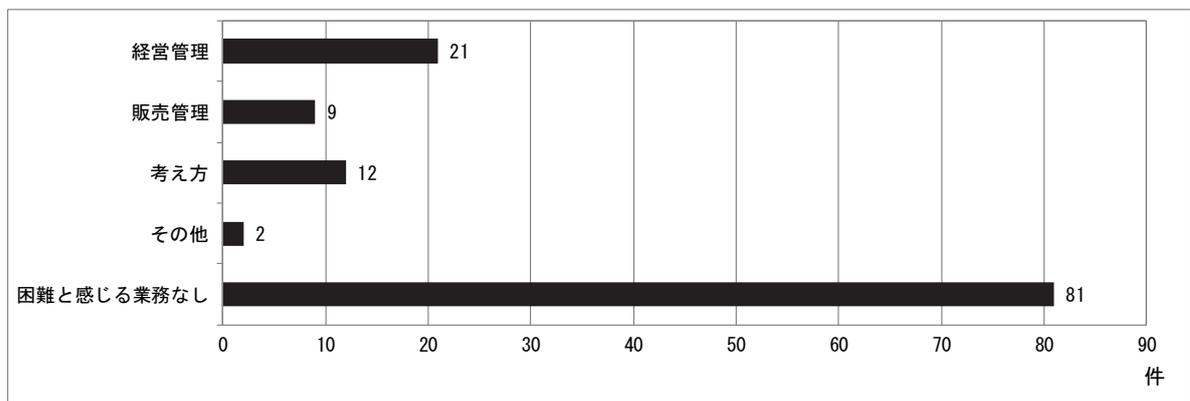
オ. 機械・車両関係

困難とするものの第1位は「機械の整備・修理」が91件、そして「機械・車両の運転」が43件で続く。この2項目でほぼ尽きているが、第3位に「困難とする業務はない」が30件となっている。先の「家畜排せつ物関係」の結果と表裏をなしているといえよう。



カ. 経営管理

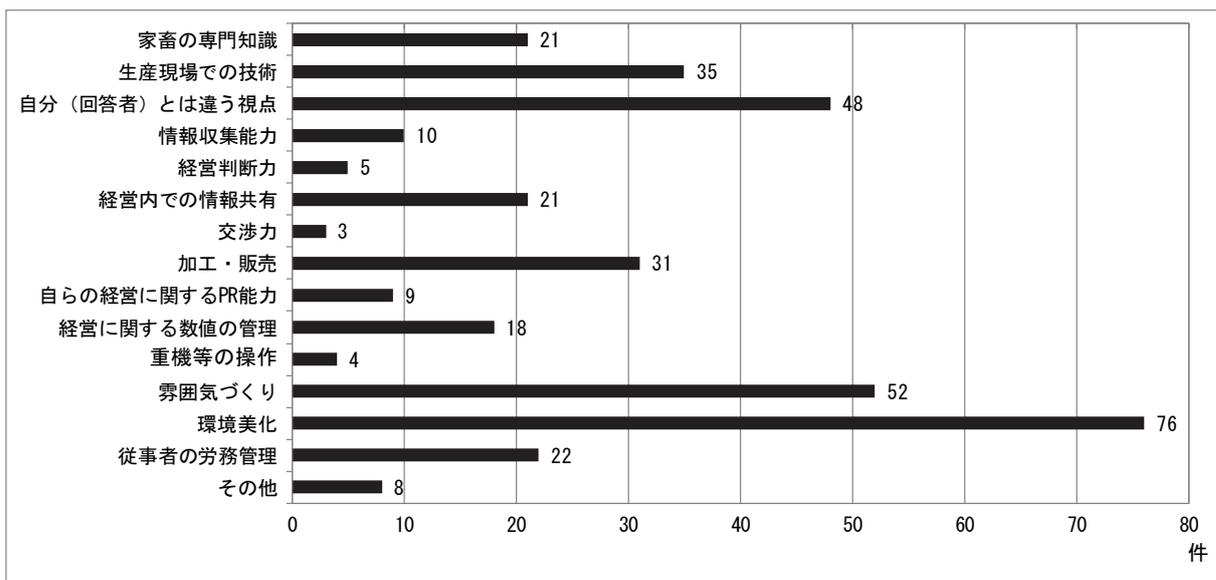
この回答は圧倒的に「困難と感じる業務はない」との回答が高く81件を数える。



12. 女性に期待すること（優れていると感じていること）（2つまで回答）

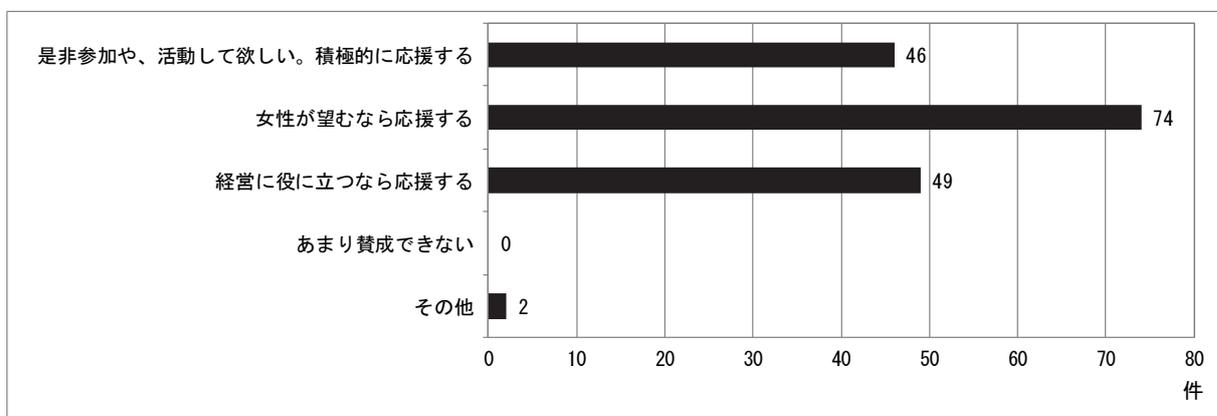
第1位は「環境美化」の76件、次いで「雰囲気づくり」の52件、「自分（回答者）とは違う視点」の48件、といった3項目が特に高くなっている。

第4位以降は「生産現場での技術」が35件、「加工・販売」が31件、「従事者の労務管理」が22件、「家畜の専門知識」と「経営内での情報共有」がそれぞれ21件、というような回答となっている。



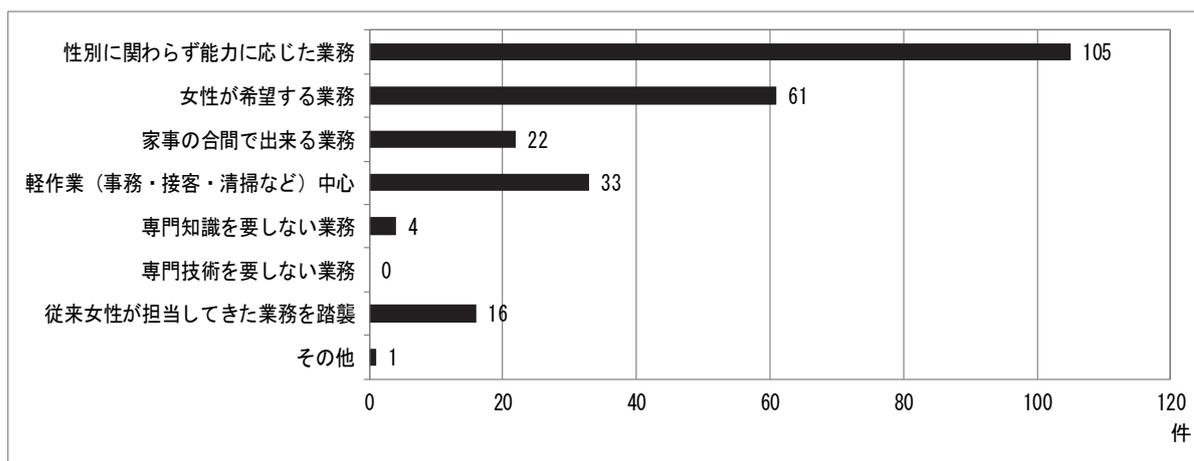
13. 従業員の女性が地域のネットワーク活動や経営以外の活動に取り組むことに対する考え（複数選択回答）

「女性が望むなら応援する」が最多の74件、次いで「経営に役立つなら応援する」が49件、「是非参加や、活動して欲しい。積極的に応援する」が46件となっている。



14. 女性に業務を割り振る際の考え方（複数回答）

第1位は「性別に関わらず能力に応じた業務」の105件であり、他の回答と比べて突出して高い回答数を示している。第2位は「女性が希望する業務」が61件、第3位は「軽作業（事務・接客・清掃など）」が33件、第4位は「家事の合間で出来る業務」が22件、第5位は「従来女性が担当してきた業務を踏襲」が16件、などである。



15. 休日や休憩時間を確保するために経営に取り入れていること（複数回答）

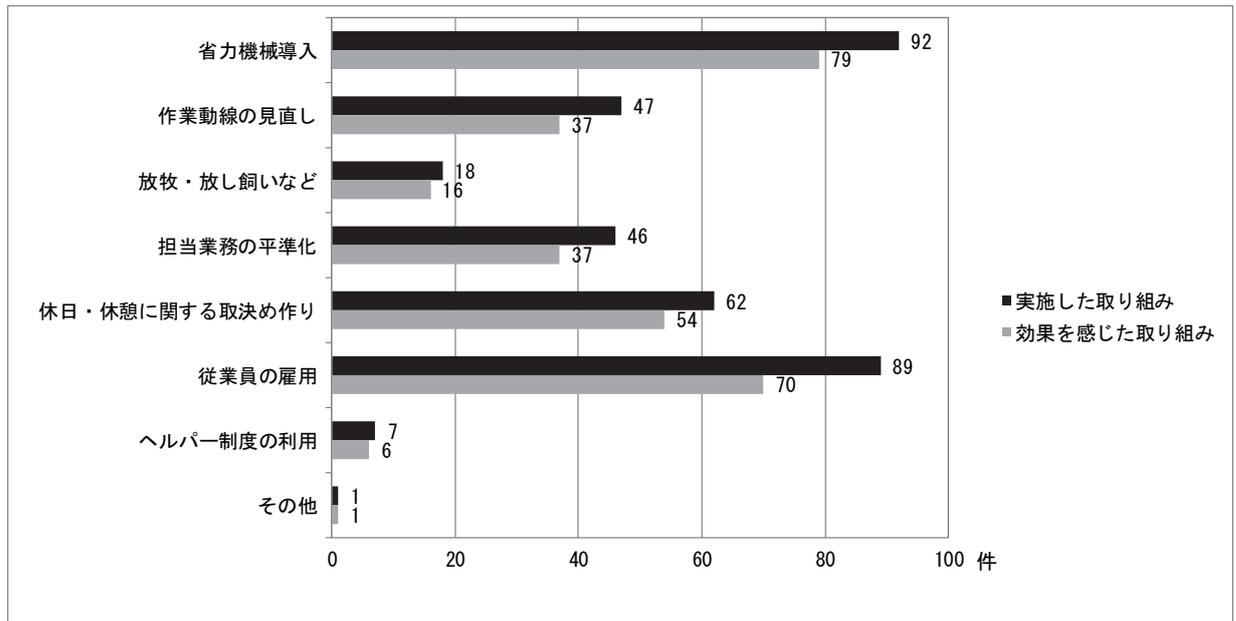
①実施した取り組み

第1位は「省力機械導入」が92件、第2位は「従業員の雇用」が89件、となっており、この2項目が突出して高い。次いで「休日・休憩に関する取決め作り」の62件、「作業動線の見直し」の47件、「担当業務の平準化」が46件などである。

②効果を感じた取り組み

先の実施した取り組みと同じく「省力機械導入」が79件と最大の回答数である。次いで「従業員の雇用」が70件、「休日・休憩に関する取決め作り」が54件、「作業動線の見直し」と「担当業務の平準化」がそれぞれ37件となっている。

このように「実施した取り組み」と「効果を感じた取り組み」は概ね同様の回答傾向を示しており、おおむね「実施内容」と「期待した効果」が相互に結びついていると評価出来る。



16. 経営に関して、女性との情報共有について

①会議・研修会の内容

「重要なものは報告」が46件、次いで「ミーティングで報告する」が43件、「必ず報告・連絡・相談する」が40件であり、この3項目が際立っている。

なお、昨年度実施した個人経営アンケートでは数は少なくなるものの「女性の関心が高く必ず聞かれる」が今回の回答傾向よりも高い傾向を示した。当然のことと思われるが、個人経営・家族経営の女性達は法人経営の女性達よりも、より積極的に情報共有についての働きかけを行っているといえよう。

②経営の将来目標

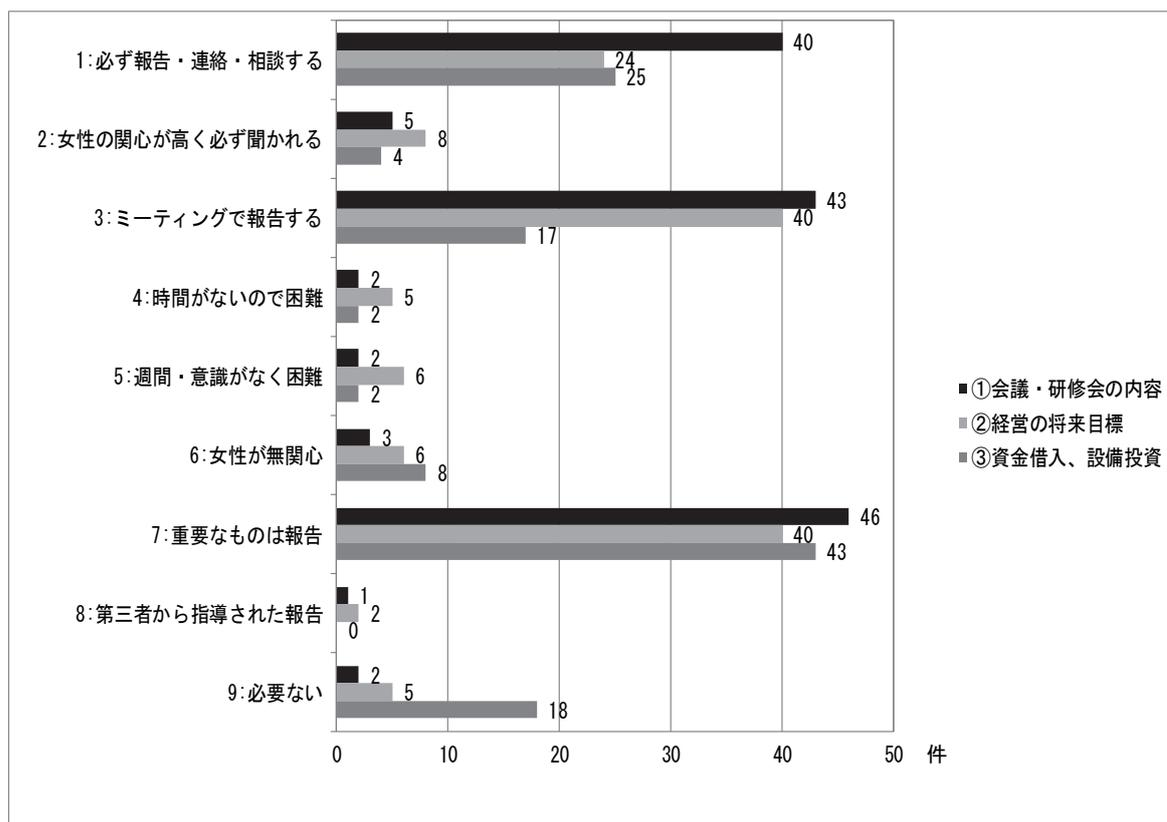
「ミーティングで報告する」と「重要なものは報告」の2項目がそれぞれ40件の高い回答となっている。しかし両項目とも先の「会議・研修会の内容」よりも回答数は低くなっている。「必ず報告・連絡・相談する」への回答件数は24件にとどまり、「会議・研修会の内容」といった具体的・現実的内容ほどには、「経営の将来目標」という理念的・中長期観点からの情報共有の意識は低下することを示している。

③資金借入、設備投資

「重要なものは報告」が43件、次いで「必ず報告・連絡・相談する」が25件、「ミーティングで報告する」が17件となっている。

先の「経営の将来目標」とも連動する結果を示しているが、その中では「ミーティングで報告する」の回答が際立って低下していることが注目される。

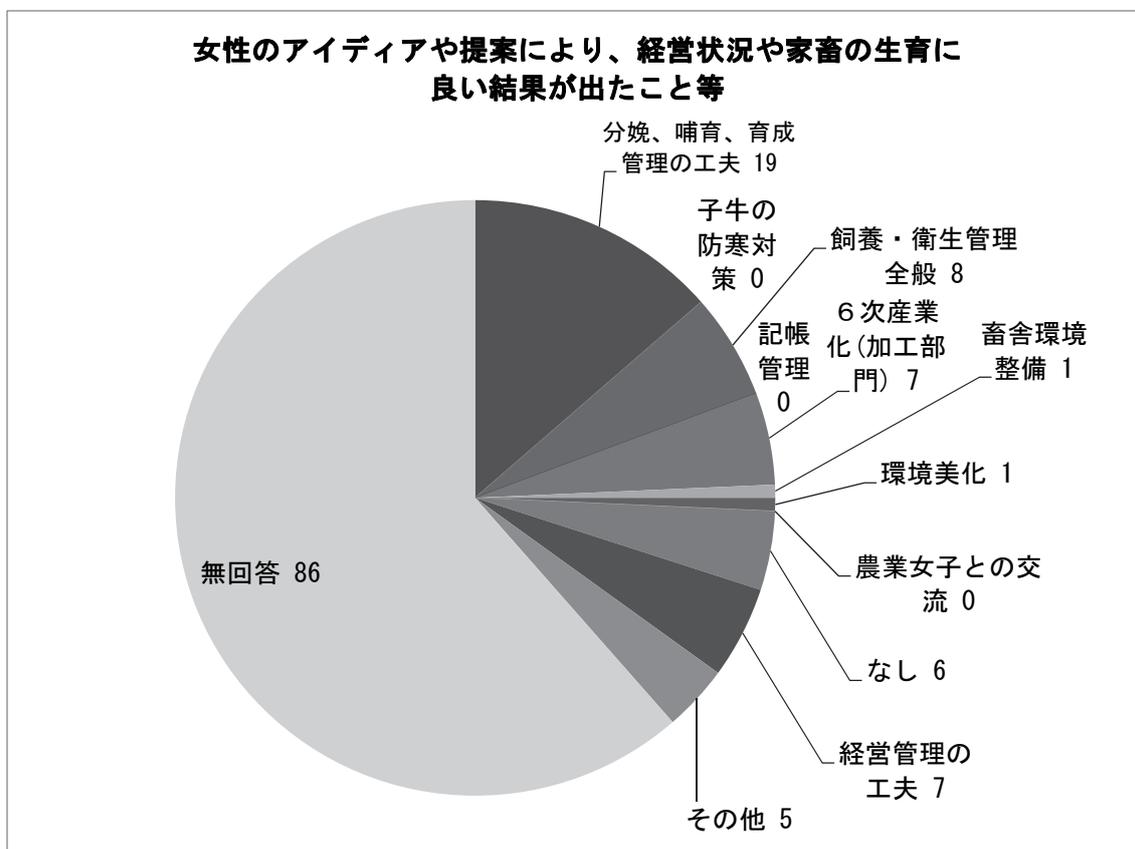
逆に「必要ない」が先の2項目への回答よりも大幅に増えて18件に上ることである。資金借入や設備投資といった経営の根幹をなす事項において共有が不要であるという回答をどのように理解すべきか。法人経営の経営者と女性従業員という厳然とした区分があることの証左であろうか。



17. 女性のアイデアや提案により、経営状況や家畜の生育状況に良い効果が出たこと等（記述式自由回答を回答項目別にグルーピングし、その傾向を整理した）

全体回答としては、「無回答」が最大の86件である。記述回答としては、「分娩・哺育・育成管理の工夫」が19件、第2位以降の回答は分散しているが、「飼養管理全般」が8件、「6次産業化（加工部門）」と「経営管理の工夫」がそれぞれ7件などである。

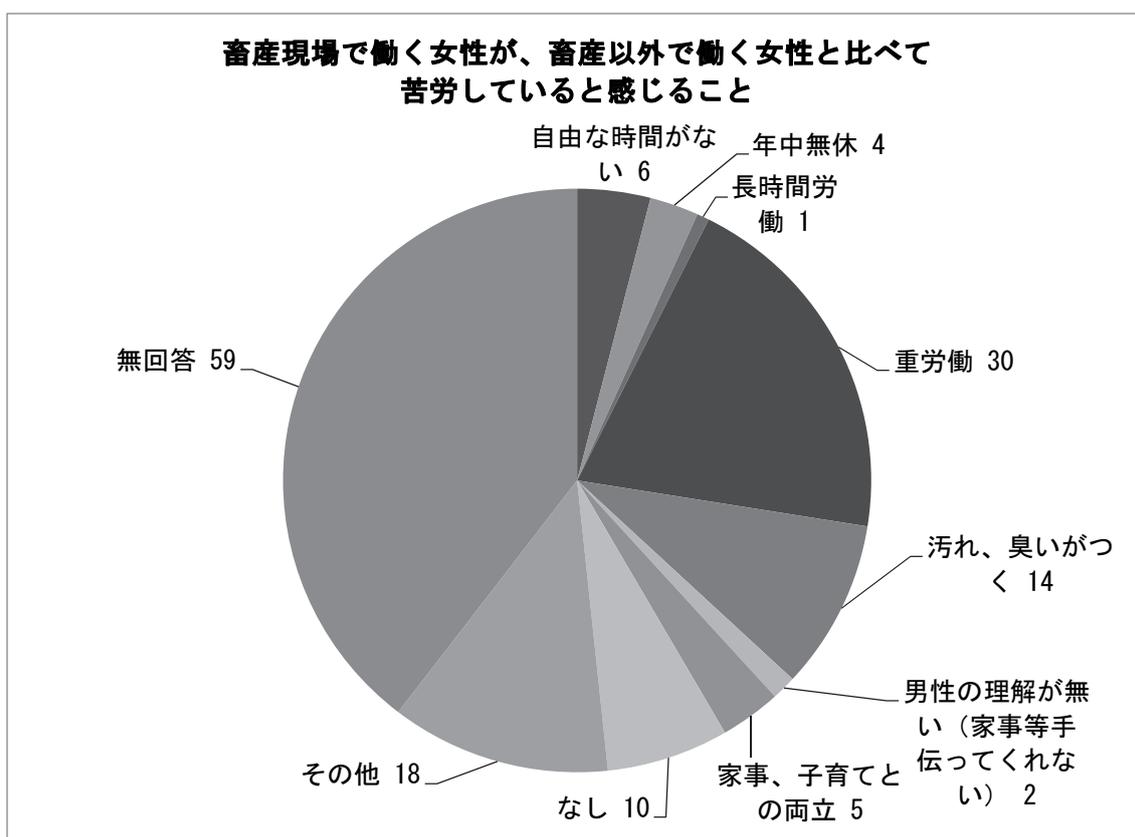
年代別にみると、「哺育・育成管理の工夫」への回答が50歳台と60歳台で高い。「6次産業化（加工部門）」も同様である。「経営管理の工夫」は40歳台と50歳台で高い。



18. 畜産現場で働く女性が、畜産以外で働く女性と比べて苦勞していることはなにか（前記と同様、記述式自由回答を回答項目別にグルーピングし、その傾向を整理した）

全体回答としては、「無回答」が最大の59件である。記述回答としては、「重労働」が30件、「その他」が18件、「汚れ、臭いがつく」が14件、「自由な時間がない」が6件、「家事・子育てとの両立」が5件、「年中無休」が4件となっている。

年代別にみると、各年代ともおおむね全体傾向と一致している。回答の多かった40歳台、50歳台、60歳台の年代別に見ると、いずれの年代とも「重労働」との回答が高い。「自由な時間がない」については、50歳台と60歳台で回答が高い。また、「苦勞していることはない」とする回答が60歳台で高い。これまでの長い職業経験を肯定的にとらえた回答が寄せられたものと推測される。



19. 現時点で、自身の経営で女性が働くために改善すべきだと感じていることはなにか（前記と同様、記述式自由回答を回答項目別にグルーピングし、その傾向を整理した）

全体回答としては、「無回答」が最大の 79 件を数える。記述回答としては、「トイレ・更衣室等の充実」が 18 件、「その他」が 17 件、「なし」が 16 件である。それ以外の回答はいずれも一ケタの回答にとどまっている。

各年代もおおむねこうした傾向を示すが、ひとつ前の 18 番の回答にみられた「苦勞していると感じた点」への改善要望の内容となっており、回答傾向がまさに表裏一体となっているといえよう。

